

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名	国立大学法人神戸大学	学部・研究科等名	文学部・人文学研究科
-----	------------	----------	------------

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

2. 上記1における顕著な変化のあった取組及び成果の状況、その理由

○顕著な変化のあった観点名

A. 「研究成果の状況」について、学術面では以下のような顕著な成果を上げることができた。

1. 平井晶子『日本の家族とライフコース：『家』生成の歴史社会学』（ミネルヴァ書房、2008年）。本書に関して、嶋崎尚子氏（早稲田大学）は「非常に意欲的な実証研究である。…本書の分析方法やその考察は手堅いものであり、対象地域の拡大など、今後の研究展開が大いに期待される。」（『家族社会学研究』20-2、2008年）と学術的価値を評価し、家族社会学の重鎮、清水浩明氏（日本大学）も書評（『ソシオロジー』54-1、2009年）で高い評価を行っている。第12回日本人口学会賞（2010年）を受賞することが決定している。

2. 大坪庸介 Ohtsubo, Y., & Watanabe, E. (2009). Do sincere apologies need to be costly? Test of a costly signalling model of apology. *Evolution and Human Behavior*, 30(2), 114-123. 本研究は生物のコミュニケーションの分析の枠組みを、初めて人の謝罪場面に適用したもので、D. Buss 教授（テキサス大学）執筆の進化心理学の教科書の次版（第4版）で取り上げられることが決定している。また、Psychology Today のサイト上の G. Saad 博士（コンコルディア大学、カナダ）のブログでも、「効果的な謝罪の秘密」として取り上げられるなど、高い評価を受けている。

B. 「社会的貢献」の分野では、以下のような顕著な成果を上げることができた。

1. 嘉指信雄・共編著『ウラン兵器なき世界をめざして -ICBUW の挑戦-』（合同出版、2008年）。本書は、「現段階における劣化ウランをめぐる諸問題を包括的に明らかにしたもので、放射線による被害の悲惨さが実に詳しく明らかにされている」として、第14回平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞を受賞した（平成20年12月5日）。発行部数もこの種の書籍としては例外的に3000部を超え、非人道的兵器の軍縮に関する基本文献として広く認知されている。現在、168の大学・公立図書館に所蔵されている。

現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名	国立大学法人神戸大学	学部・研究科等名	文学部・人文学研究科
-----	------------	----------	------------

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

Ⅲ 質の向上度の判断 事例3「学術的意義の高い研究成果」(分析項目Ⅱ)

2. 上記1における顕著な変化のあった取組及び成果の状況、その理由

○顕著な変化のあった観点名

A. 「研究成果の状況」について、学術面では以下のような顕著な成果を上げることができた。

1. 平井晶子『日本の家族とライフコース：『家』生成の歴史社会学』（ミネルヴァ書房、2008年）。本書に関して、嶋崎尚子氏（早稲田大学）は「非常に意欲的な実証研究である。…本書の分析方法やその考察は手堅いものであり、対象地域の拡大など、今後の研究展開が大いに期待される。」（『家族社会学研究』20-2、2008年）と学術的価値を評価し、家族社会学の重鎮、清水浩明氏（日本大学）も書評（『ソシオロジー』54-1、2009年）で高い評価を行っている。第12回日本人口学会賞（2010年）を受賞することが決定している。

2. 大坪庸介 Ohtsubo, Y., & Watanabe, E.(2009). Do sincere apologies need to be costly? Test of a costly signalling model of apology. *Evolution and Human Behavior*, 30(2), 114-123. 本研究は生物のコミュニケーションの分析の枠組みを、初めて人の謝罪場面に適用したもので、D.Buss 教授（テキサス大学）執筆の進化心理学の教科書の次版（第4版）で取り上げられることが決定している。また、*Psychology Today* のサイト上の G.Saad 博士（コンコルディア大学、カナダ）のブログでも、「効果的な謝罪の秘密」として取り上げられるなど、高い評価を受けている。

B. 「社会的貢献」の分野では、以下のような顕著な成果を上げることができた。

1. 嘉指信雄・共編著『ウラン兵器なき世界をめざして -ICBUWの挑戦-』（合同出版、2008年）。本書は、「現段階における劣化ウランをめぐる諸問題を包括的に明らかにしたもので、放射線による被害の悲惨さが実に詳しく明らかにされている」として、第14回平和・協同ジャーナリスト基金奨励賞を受賞した（平成20年12月5日）。発行部数もこの種の書籍としては例外的に3000部を超え、非人道的兵器の軍縮に関する基本文献として広く認知されている。現在、168の大学・公立図書館に所蔵されている。